

ギャラリーー仲摩通信

二〇二〇年七、八月合併号

残暑お見舞い申し上げます。
今年の梅雨は豪雨で各地が大洪水の被害を受けました。

被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます、一日も早い復興をお祈り申し上げます。



少しずつ経済活動が戻り始め、長らくご無沙汰していたお客様を訪問しました。もちろん、マスク着用です。

打ち合わせテーブル上のアクリル板仕切り越しに会話をしました。

本題の打ち合わせと共に教えて頂いたのは、社員数の半数が交代で出社される体制の為、メールだと時差が起こらずにお読みいただけ、紙媒体よりも資料はデータが望ましい事でした。

本誌の発送方法も読者の方のご都合を考慮してゆきたいと思えます。



本号では、ガラス芸術コレクターの方に頂いた情報、ならびに東京交響楽団の梶川さんに寄稿して頂いたコロナ禍の音楽事情をご紹介致します。
(仲摩)

■美術館展示情報

●北海道立近代美術館

<http://www.dokyo.jp/pref.hokkaido.lg.jp/hk/nb/index.htm>

◆瀧川嘉子「ゼロ無限」が二階ホールに展示されました。

瀧川嘉子さん（1937）は、現代日本を代表するガラス彫刻家です。

板ガラスを積み重ねて立体作品をつくるという独創的な手法によりガラス彫刻の新天地を切り拓いてきました。光によって生じる多彩な変化、また「実体と虚像」「存在と無」といった相反する性質をあわせ持つガラスの両義性を追究した制作は国際的にも高く評価されています。

渦巻き状の造形が印象的な《ゼロ・夢幻》は二〇一一年に制作されました。



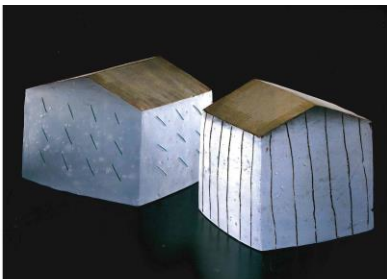
ニューヨークのテロ事件以後の世の中に対するメッセージが込められています。

◆世界現代ガラス展

一九七七年に開館した北海道立近代美術館は、新たに築くコレクションを特色あるものとするため、いくつかの収集方針のひとつとしてガラス芸術を選択しました。うち、近代以降の国内外の優れたガラス作品を系統的に収集した数は、平成二十九年三月末現在、一二四〇点に及びます。

世界の優れた現代作家のガラス造形作品を国内外の審査員によるコンクール形式で日本に紹介する「世界現代ガラス展」は一九八二年から一九九四年まで、北海道立近代美術館を皮切りに、下関市立美術館、広島市現代美術館、大丸ミュージアム・東京、岐阜県美術館、大丸ミュージアム・梅田、倉敷市立美術館、他を巡回し、三年おきに開催されました。

写真の作品は、一九九一年に開催された「世界現代ガラス展」で北海道立近代美術館を受賞



した、扇田克也さんの「アミノヒモアル」「ワタシノアゾラ」です。

◆水田順子さんの思い出

インターネットという便利な媒体が無かった当時、「世界現代ガラス展」はガラス芸術の最新の動向や新たな作家を知ることが出来るギャラリーーにとって誠に有難い展覧会でした。

担当されていた学芸の水田順子さんは年が近かったこともあり、時々、情報交換をしたりしました。

ある年、ギャラリーー仲摩スタッフの勉強会に、不遜にも、繊細な作品を扱い慣れている水田さんにガラス作品梱包の実技研修をお願いしました。

「私たち、職を失ったら日通さんが雇ってくれるそうです。」真顔で言われた水田さんの粹な一言でした。

いつもニコニコ、笑顔を絶やさなかった誰にでも好かれた水田さんは、ガラス芸術の分野で国際的に活躍されましたが、悲しいことに二〇一五年に五九才の若さで永眠されました。

この通信を書くにあたり、北海道立近代美術館の学芸部に電話で問い合わせした日は偶然にも、八月三日、水田順子さんのご命日でした。

「これからもずっと、真摯にガラス芸術紹介を続けてゆくように」という水田さんからのメッセージだと感じています。
(仲摩)

■ 昨今のオーケストラ事情

東京交響楽団の場合

オーケストラの演奏会といえば、多くの人が集い、大編成の楽器奏者による息のあったアンサンブルを楽しむ、休憩中はロビーでワインを片手におしゃべり……。そんな音楽会の風景が今年が変わってしまいました。

二月末、ホールのレセプションがマスクを着用し、ロビーには消毒薬が置かれました。三月、多くの演奏会が中止となりましたが、私たち東京交響楽団は、音楽の灯を絶やしてはいけないと、無観客のホールからコンサートのライブ配信をいち早く行い、ホールキャパの五十倍



2020年3月8日 無観客席でのライブ配信
ミューザ川崎シンフォニーホール

にあたる十万人が視聴し、全国から寄付も集まりました。

それでも、緊急事態宣言下の四月と五月はすべての演奏会がキャンセルとなり、スタッフは在宅勤務と週一回の出勤で演奏会の中止や延期の対応

入場制限50%で着席は市松模様(サントリーホール)



に追われることに。演奏の機会を失った楽員は、ひたすら家で練習を続ける日々でした。

六月後半になり、ようやく演奏会を再開できたものの、舞台上は奏者間のソーシャルディスタンス、お客様へは政府のイベント開催ガイドラインに沿って一席ずつ空けての着席、検温、マスク、消毒のお願いに加え、ブラボーなどの声掛けの自粛願、バーコーナの閉鎖などの感染防止策が取られた演奏会の様子はなかなか馴染めないものです。

七月には入国制限で来日できない音楽監督、シヨナサン・ノットが収録映像による指揮で演奏会に登場するという初めての試みにも挑戦しました。

皆様も少なからず新型コロナウイルスによる影響を受けていらっしゃると思いますが、私たち東京交響楽団は、先日もお客様からいただいた「コロナ

録画映像の指揮による演奏

東京オペラシティコンサートホール



た「コロナ禍の中、最高の時間をいただくことに感謝いたします！音楽って本当に素晴らしいですね。」というメッセージや、ファンの方々の熱い拍手、あたたかいご支援に支えられ、万全の感染対策を取った上で、演奏を続けていきます。

九月は東京オペラシティシリーズ第一一七回(9/2)、第六八三回定期演奏会(9/26 サントリーホール)を開催予定です。
<https://tokyosymphony.jp>

(公益財団法人 東京交響楽団
支援開拓本部 梶川純子)

◆ プログラム SYMPHONY

一九九九年四月から五年間にわたり、東京交響楽団定期演奏会プログラム表紙にドイツのウルスラ・フース作品を起用して頂きました。東京交響楽団五十五周年に、各回の演奏曲に合わせウルスラさんが新作の描きおろしをし、ギャラリー仲摩からシルクスクリーン版画を出版しました。



第489回定期演奏会 2002/2/23
プログラム SYMPHONY
サントリーホール

【編集後記】

ゴートウーキャンペーンで遠方の展覧会に行けると喜んだのも束の間、今度は「帰省は自粛を！」一喜一憂する日々です。(仲摩)

《編集・発行》ギャラリー仲摩

横浜市緑区三保町二〇六〇番地

TEL: 090-1053-6642

FAX: 045-507-3080

<http://www.nakama.co.jp>

nakama@nakama.co.jp